

# 海あそび塾 2016 春のイベント終了しました

ご参加のみなさまへ

謝辞

海あそび塾主催者一同

2016年3月26日、年度末の多忙のなか、海あそび塾「春イベント」にご参加くださりまして、ありがとうございます。さいわい天候にも恵まれ、みなさまとの交流もみのり多い成果をもたらしました。感謝の言葉しかございません。

今回、初の女性ゲストスピーカーによるトークショーを実現することができました。お二人とも非常にユニークな取り組みをされていることに敬意を評します。その熱気が会場に伝わったことを、主催者として喜びといたします。重城さんが提起された海底に顔を発見するという楽しい作業は、どなたにでも参加できます。ゆくゆくは、この海あそび塾でFACE展覧会を開催したく思っております。

また、藤原さんは自然観察で鍛えた好奇心を活用して、和歌を生物観察の「記述」として理解しようという試みは、じつに独創的なアイデアです。本業は文学をやっている塾長がとりわけ興味を露わにしておりました。かつて水族館の大きな人集め戦術は、じつは句会の開催なのでした。明治の水族館には文学も関わっていたわけです。そうした佳き伝統の復活を感じさせました。藤原さんの熟練したプレゼンもすばらしかったですが、なにせ短時間しか用意できなかったことをお詫びします。あらたにプレゼンの方法を考えて、風流の心も海あそびの一部に加えていきたいと思いました。

海遊び主催者「三人オヤジ」のほうは、いちばん若い鈴木香里武のほっこりした話術と穏やかな進行によって展開しました。香里武塾頭のおはなしは、なんと、「生物の突然死」にかかわるエピソードでした。図がなくてもまったく興味を殺がない展開は、さすがでした。しかし、今回の目玉は、副塾頭によるおどろき映像です。なんと、真っ暗な洞窟で光るヒカリキンメの映像を撮影することに成功しました。副塾長さとうの360度カメラによる洞窟探検の映像は画期的であり、しかもおもしろいものでした。これまでマニアックな方向で苦心してきた副塾長も、今回はしっかり手応えを得たようです。この映像を機に、一般の方でも感動する力のある映像を製作してくれると思いますので、ぜひ次回もご期待ください。蛇足ながら、塾長はウニとダンゴウオの食べもの秘話二本立をお贈りいたしました。重城さんが予定されていた材料とかぶってしまい、申し訳ないかぎりでした。次回は事前に密なるすり合わせを致したく思います。みなさま、ほんとうにまことにありがとうございました。

次回は、夏の磯実習を企画する予定であります。瓜生知史さんの新映像や、岸壁採集師黒柳都夫さんのあらたな成果も、追って報告していただく機会を設けます。次回はどんな話や映像が登場するかわかりませんが、企画がかたまり次第、アナウンスさせていただきます。

終わりにになりましたが、当日受付をしていただいた魚類飼育のスペシャリスト荻野菊広さん、会場風景の撮影と取材をしてくださったダイブ・ネットの茂木みかほさん、ありがと

うございました。茂木さんのレポートは、いずれダイブ・ネットに載ることと思いますので、どうかお楽しみに。

さらに、参加いただいたみなさまにアンケートにご協力いただきました。わたしたちが進歩するかどうかは、みなさまのご指導にかかっております。忌憚のないご意見、ご感想をたくさん聞かせてくださったことに感謝いたします。これからもすばらしい海あそびのときを共有してまいりたいと希望いたしております。

2016年3月26日	海あそび塾	塾長	荒俣宏
		副塾長	さとう俊
		塾頭	鈴木香里武